平成３０年度　学校評価表（最終）

学校教育目標　　一歩前へ！果敢に挑戦　　－夢を志に－

ミッション　「西中だからこそ」の教育の創造

ビジョン　信頼され誇れる学校

A：達成　B：概ね達成　C：もう少し　D：できなかっ

海田町立海田西中学校

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標 A:達成　B:概ね達成 C:もう少し　D:できなかった	目標達成のための具体的方策	評価結果		自己評価 評価点	自己評価 成果○と課題▲	自己評価 改善策	学校関係者評価 コメント
確かな学力の育成	学力で一歩前へ果敢に挑戦	○夢を志にする力の育成	各種学力調査で全国平均値を超えることができる。 ※3年:全国学力・学習状況調査【国AB数AB理】 1年,2年:CRT(標準学力検査)【国社数理英】 とする。	A:全教科 B:80%以上(11教科以上) C:60%以上(8教科以上) D:60%未満(7教科以下)	・全教職員で本校の課題を共有化し，個に寄り添った学習支援をするために，「学習定着週間」や長期休業中の補充学習を行う。 ・各種テストにおいて，生徒実態を把握し，PDCAを行い授業改善につなげる。	3年　全国学力・学習状況調査 （全国平均との差） 国語A（＋5.9）国語B　（＋4.8） 数学A（＋6.9　数学B（＋7.1） 理科　（＋0.9）	中間	A	○4月に行われた全国学力・学習状況調査は，全教科とも全国平均・県平均を上回ることができた。	・学習の苦手な生徒も「学習定着習慣」などの取組により,最後まであきらめずに問題に取り組めるようになってきており，引き続き積極的に学習に取り組んで行けるような環境を作っていく。	・全国学力・学習状況調査について，理科の課題を分析し，教材を十分生かし，力を入れてもらいたい。
						1・2年　CRT（標準学力調査） （全国平均との差） 国語　（1年　＋4.1　2年　＋4.2） 社会　（1年　－1.3　2年　－2.5） 数学　（1年　＋13.8　2年　＋10.1） 理科　（1年　＋4.2　2年　＋5.0） 英語　（1年　＋7.3　2年　＋13.0）	最終	B	○1月に実施した1・2学年標準学力調査では，社会を除く4教科で両学年とも全国平均を上回ることができた。 ▲社会が両学年とも全国平均をわずかに下回っている。	・各教科担当の授業力向上はもちろんのこと，家庭学習ノートの習慣化やHR学習の活用などを通して全教職員で全ての生徒の学習支援にあたっていける環境を今後も継続していく。	・2学年で一時学力が低下する傾向が見られるところが課題。 ・家庭学習を習慣づける取組として，毎日の宿題提出が効果的であった。
		○授業力の向上	①授業では，解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないか」と予想しています。②授業では，自分の考えとその理由を明らかにして，相手にわかりやすく伝わるように発表をくふうしています。③振り返りを行っています。 と答える生徒の割合が前年度を上回る。(※③については新規。1回目調査と最終調査の比較とする)	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:県平均 D:上回ることができなかった	・西中授業システムをベースに課題の発見と解決を目指した授業づくりを行う。 ・ICT活用で目的意識を明確にし意欲を高めグループワーク(GW)を効果的に取り入れる。また，板書や教材の提示方法を工夫するどの視覚支援を行う。 ・校内研修会を行い，すべての教員が授業改善の視点に基づいた単元開発を行う。	西中校区1学期末アンケート結果 肯定的評価 1年　①95.9%　②89.0%　③91.8% 2年　①93.9%　②71.2%　③84.8% 3年　①97.0%　②81.8%　③89.0%	中間	B	○①の仮説を立てる項目では全学年とも，肯定的評価が90%を超えている。 ▲②の発表の工夫に関する項目では，全学年とも90%を割っており，今一歩表現力の向上が課題である。	・2学期にタブレットの追加導入とICTルームの整備に伴い，教師側のタブレット活用技能を高めると同時に生徒による活用の場面を多く取り組んでいく。	・タブレットはどのように活用しているのか。 ・特別の教科道徳について，評価方法はどのように行っているのか。 ・中学校の課題は小学校の課題。表現力はやや課題がある。
						西中校区3学期アンケート結果 肯定的評価（県平均との差） 1年①95.8%(+19.9)　②91.5%(+30.8)　③90.1%(+29.3) 2年①90.6%(+14.7)　②62.5%(+1.8)　③78.1%(+17.4) 3年①96.9%(+21.0)　②87.5%(+26.8)　③90.6%(+29.8)	最終	A	○全項目・全学年とも県平均を大きく上回ることができた。 ▲1学期末にとった結果よりわずかではあるが，下がっている項目がみられる。	・ICTルームの整備に伴い，生徒によるタブレット活用の機会が増えてきたが，英語ルームとの兼用の部屋のため，実施できた教科・学年が限られた。来年度に向けて，部屋の確保とともに，時間割の工夫などで，より多くの教科・学年で実施できるようにしていく。	・授業の場面において，思ったこと，考えたことを表現することが苦手。タブレットの活用等でグループワークを効果的に取り入れ，取り組んでもらいたい。
豊かな心の育成	豊かな心で一歩前へ果敢に挑戦	○生徒会活動の活性化	委員会活動の取組に積極的に協力，参加したとする生徒を80%以上にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・委員会活動の取組が生徒一人一人のものとなるよう,各委員会は取組の進捗状況並びに成果と課題を明らかにさせていくとともに，地域・保護者へ発信する広報活動をさらに推進していく。 ・委員会の取組に則り優れた学級,生徒へは積極的に全体の場で肯定的評価を行う。	肯定的評価　172(86．8%) 否定的評価　26(13．2%) 4　3　2　1 1年　17　42　10　3 2年　23　32　5　4 3年　29　29　3　1　(人)	中間	A	○肯定的評価は,3年生が93．5%と高く,次いで2年生85．9%,1年生81．9%となっており,いずれも目標値を越えている。 ▲「大いに参加,協力できた」とする生徒は,全体で34.8%。特に1年生が23.5%に留まっており,この段階への生徒の引き上げが課題である。	・豪雨災害により,年間活動予定が遂行されない状況があったため,今後計画の修正を行い，当面は文化祭に向けテーマに沿った取組を充実させていく。	・小中合同の活動では，熱い思いを持って行っている。 ・先生方が熱心に指導・支援を行っている。不登校になった時も支えてくれ，それから楽しく人間関係も良くなった。 ・豪雨災害の時にも人間として何をししたらよいかを示してくれた。
						肯定的評価　166(86．9%) 否定的評価　25(13．1%) 4　3　2　1 1年　25　36　7　2 2年　19　32　9　4 3年　29　25　3　0　(人)	最終	A	○全体では肯定的評価をあげた。 ○1年生は，肯定的評価を81．9%から87.1%に3年生は，93．5%から94．7%にあげた。 ▲2年生は，肯定的評価を85．9%から79．7%に下げている。	・新生徒会執行部には，伝統と改革を意識させつつ生徒自治の中心を担う人材としてのリーダー養成を行っていく。 ・各委員会の取組が，生徒全員の取組となるよう，積極的に広報活動を展開していく。	・地域の姿が本物だと思う。自分で考えて行動していく力は小学校でも同じ。子どもの姿を通して3校が連携し，子どもたちに自信をつけ，見守っていきたい。 ・入学してからも学力の向上は図ることができる。中学校段階で豊かな心を育成する取組は重要。
		○道徳的実践力の向上	生徒の自尊感情を高める肯定的な回答を全校で80%以上にする (QUアンケート「みんなのためになることを自分で見つけ実行している」項目)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・あらゆる教育活動において，生徒がポジティブに自己を捉えるよう，タイミングの良い肯定的評価を学校,保護者,地域が一体となって行う。 ・体験活動の意義を説明し,生徒に意欲を持たせる。	肯定的評価184(86．8%) 否定的評価　28(13．2%) 4　3　2　1 1年　31　35　7　2 2年　29　28　11　2 3年　29　32　4　2（人）	中間	A	○昨年度，肯定的評価が中間で84．1%であったものが，最終81．7%に下がっていった。　本年度は，3年91．0%，2年81．4%，1年88．0%とどの学年も肯定的評価をする者が増えている。 ○豪雨・土砂災害に際して，自分のできることを真剣に考え実践した生徒が多くいた。	・学校行事への関わりを深めさせ，文化の創造への喜びを体感させることにより，より一層自尊感情を高める。 ・小中連携における活動を通して,中学生としての自信や誇りを持たせるとともに,活動成果等を通信等で校内はもとより地域・保護者に行っていき，積極的にアピールしていく。	・今まで，挨拶運動，職場体験活動等地域と共に行い，それが伝統となっている。 ・職場体験でもいい感じで生徒が活動している。「ああなりたい先輩」になってもらっている。 ・西中での3校合同あいさつ運動が，年1回となっている。良い活動なので，続けて欲しかった。 ・生徒会の取組で，自分たちで考え実行していく経験をさせてもらっている。
						肯定的評価175(83．3%) 否定的評価　28(16．7%) 4　3　2　1 1年　37　27　9　2 2年　28　28　8　4 3年　27　28　11　1（人）	最終	A	○昨年度同様，肯定的評価が中間よりも下がっていったが，　本年度は，3年82．1%，2年82．4%，1年85．3%と全学年80%以上を達成した。 ▲1年生で2人(2.7ポイント)，3年生で6人(8.9ポイント)肯定的評価から否定的評価へと評価を下げている。	・学校行事，生徒会行事を中心に，活動が生徒主体となるように取り組むとともに，事後指導を行う中で，生徒の活躍を広く校内外に知らせていく。 ・現2年生が中心に生徒自治に携わっていくため，その自覚を持たせるとともに，活動について最後までやりきらせ，自信を持たせ，次への活力とさせる。	・今回の豪雨災害のボランティアを行う姿から，自分たちは当たり前のこととして捉え動くことができている。また，挨拶についても地域の中で自然と声をかけてくれる生徒もいて，これまでの活動が根付いていると感じる。素直な生徒が多い。
健やかな体の育成	たくましい体で一歩前へ果敢に挑戦	○体力の向上	体力テストで，体力項目の80%以上，全国・県平均を上回る項目がある。	A:80%以上(48項目中) B:70%以上80%未満 C:60%以上70%未満 D:60%未満	・各自目標値を持って取り組ませる。 ・弱点補強を授業とリンクさせる。	体力合計点を含む全学年54項目中45項目で全国かつ県平均を上回った-83.3%(28年度全国・29年度県平均比較)	中間	A	○それぞれの項目に数値目標を設定させ，モチベーションを高めることに努めて測定した。 ▲運動習慣に関するアンケートによると,1日の運動実施時間が30分未満と回答する生徒の割合が男子で10.7%,(昨年8.3%　一昨年7.2%)　女子で29.1%(昨年30.4%　一昨年26.2%)と男子に増加傾向が見られる。	・保健体育科の授業では補強運動として,毎時課題に沿った運動を仕組む。 ・長期休業中,自己の体力課題に沿った取組を行わせる。 ・委員会活動を利用して,健康増進運動や縄跳びの奨励を行い,運動習慣を見直させる。 ・校内掲示等を利用し,自己の体力への関心を高めるとともに実践に向けての具体的方法を示唆する。	・夏季，非常に暑い時期が続いたので，外での活動は小学校でも心配した。
信頼され誇れる学校	生徒,保護者,地域が誇れる西中に	○情報の受信・発信の充実	「子どもの学校の現状について」の満足度が昨年度を上回る。	A:すべての学年が昨年度以上 B:一部の学年が昨年度以上，どの学年も昨年度未満はなし C:昨年度と同じ(90%) D:昨年度を上回ることができなかった	・外部の方に学校の取組ややりきる生徒，教職員の姿を実際に見ていただく機会をふやす。 ・HPや学校便り等で生徒・教職員の前向きな姿を発信する。	1年　87.9% 2年　84.2%（－4.4） 3年　100.0%（＋5.1） 合計　90.4%（－3.0） ※昨年度との差	中間	D	○HP，学校だより等で生徒の活動や果敢に挑戦する様子や姿を発信することができた。 ▲「子どもの学校の現状について」の肯定的回答が3年生では，100%と前年度より5.1ポイント上昇していたが，全体としては約3ポイント下降している。	・生徒の自ら気づき，考え，実行した場面を丁寧にとらえ，HP・学校だより等で『今，できること』を実行できる価値について積極的に発信する。 ・HP等で学校の取組を知っていただくとともに，文化祭，学校へ行こう週間等で学校へ来て見ていただく機会を増やしていく。	・評価点Dは，厳しい自己評価ではないか。全体の平均が90%を超えていることから，充分に満足できる評価ではないか。